

# 会 長 挨拶

全国高等学校インテリア科教育研究会  
会長 鈴木 祐弘  
(千葉県立市川工業高等学校長)

平成21年度第46回全国高等学校インテリア科教育研究大会を、大阪の地で全国からの多数の会員の皆様とともに開催できますことは、大きな喜びとするところであります。

会員の皆様には、平素より、本研究会やインテリア科教育の充実・発展のため、様々な研鑽を積むとともに、生徒の教育に尽力されていることと存じます。

本会副会長の大阪市立工芸高等学校 吉村俊昭校長、熊本県立八代工業高等学校 八十田 宏校長ともども力を合わせ、本大会の成功のために微力ながら努力させて頂きますので皆様のご協力・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

さて、2005年の全イ研ニュースに、「本会は、昭和39年3月27日、工芸科及びこれに準ずる学科を設置する全国の工業高等学校に呼びかけられ、都立工芸高等学校において、第1回の結成総会を開き、ここに、全国高等学校工芸科教育研究会（全芸研）の発足となりました。その後、昭和49年度よりの教育課程改定にともない、学科の名称はインテリア科と改称されるにいたり、本会の名称も、全国高等学校インテリア科研究会（全イ研）となりました。」とあります。昭和39年の会員数は46校であり、昭和62年に51校であったものが、現在は33校になりました。

全国的に高校再編が進行し、産業系高校においては、学科の改変・統廃合が進行する中で、インテリア科設置校数が全国的に減少している深刻な一面があります。このような状況の中だからこそ、全国のインテリア科の教員が一同に会し、ものづくり立国日本を支える工業教育の重要な部分を担うインテリア科教育について、様々な視点から日ごろの研究や実践に基づいた発表や研究協議を行うことは、非常に大きな意味のあることだと考えています。

本校インテリア科の授業では、デザイン、製図、木工、伝統工芸、コンピュータによるデザイン、CADなど、実に多様な実習が行われており、生徒の技能だけではなく、豊かな感性を持ったものづくりの人材育成が、丁寧な、根気強い指導の下で行われています。このような教員の魂の入った教育は、全国の他のインテリア科においても同様に取り組まれているものと思っています。

教育界が直面している課題はあまりにも多く、改革の速度は非常なスピードで進行しています。私たち教員が日々研鑽し、指導力と人間性を磨いていくことが従来にもまして求められています。本研究会が大きな成果と充実したものに終わることを祈念いたしますとともに、本研究会を開催するにあたり多大なご尽力をいただきました大阪市立工芸高等学校をはじめ関係の皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。